

2014年度第4号のレター発行となります。本号では、2015年3月14日(土)に東京未来大学にて開催されました「第40回支部例会」での発表要旨、並びに、同日に執り行われました「2014年度関東支部総会」における決定事項を掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

### ◆第40回 関東支部研究例会 ご報告◆

2015年3月14日(土)、東京未来大学 本館・会議室1において第40回関東支部例会が開催されました。当日は4組(8名)の会員による研究発表が行われましたが、各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な例会となりました。終了後、北千住駅近くにて懇親会を行い、会員同士の親睦を深めることが出来ました。以下、例会での研究発表の要旨を掲載致します。

#### ◆開会の挨拶: 関東支部長 近藤俊明 (東京未来大学)

#### 1. フィンランドにおける多文化保育と家族支援の研究

九州ルーテル学院大学准教授 三井 真紀

本研究は、フィンランドにおける多文化保育と家族支援の方向を分析することを目的としたものである。本報告では、ヘルシンキ在住日本人の親を対象に計画したプロジェクト「子育て座談会」の試みおよびプロセスを通し、移民家族をとりまく多文化共生社会のありようを再考したい。

従来の多文化保育研究は、マジョリティである現地保育者や研究者から見た家族支援・子ども理解の蓄積が中心となり、当事者の生活世界の分析には課題が残る。現代の多文化保育現場では、移民の子どもや親自体が主体となってマジョリティの子どもがエンパワーされる姿も多くみられる。新しい価値観や社会理念が構築される段階に向け、当事者(移民)主体の家族支援の方向と必要性を検討する。

#### 2. デザイン教育における印象評価サポートツール活用事例の報告

湘北短期大学情報メディア学科講師 森崎 巧一  
東京工芸大学工学部電子機械学科 大海 悠太  
湘北短期大学情報メディア学科 高木亜有子  
慶應義塾大学 SFC 研究所(訪問) 関根 雅人  
早稲田大学大学院国際情報通信研究科 小楠 竜也

第38回関東支部研究例会兼東北支部合同大会で発表した「印象評価サポートツール(Excel版)及び(Web版)」について、実際の教育現場で活用した事例を報告する。印象評価サポートツール(Excel版)は、共同研究者(湘北短期大学情報メディア学科、高木亜有子)と共に行ったデザイン教育研究の中で、デザイン教員が本ツールを

有効に活用できるか確かめた。本ツールは、グループワーク企画・制作における学生のグループ化において活用され、学生の感性の距離に応じたグループ化を効率的に行うことができた。印象評価サポートツール(Web版)は、共同研究者(東京工芸大学工学部電子機械学科、大海悠太)と共に行った東京工芸大学の特別講義「情報デザイン」の中で活用し、印象評価の初学者でも実行可能かどうかを確かめた。大部分の学生が、本ツールの利用方法を理解し、印象の調査と印象特徴の分析が可能であることを確認した。

### 3. 保育・教育専攻の学生における海外ボランティア・プログラムの意義

東京未来大学准教授 田中 真奈美  
東京未来大学講師 金塚 基

本報告では教(保育)職志望の学生の就業力全般の育成に関わるボランティア・プログラムの観点から、教(保育)職志望の維持や展開、基本的な資質の向上といったより広範な学習を要するであろう1・2年生の海外ボランティア・プログラムをケースとして取り上げた。当該ボランティア・プログラムを通じて、参加学生の教(保育)職志望としての意欲や自覚に与える影響について考察すること、ならびに当該ボランティア・プログラムの課題についてさらに検討を加えることを目的とした。

釘山(2011)による「職業選択における危機尺度」を用いたアンケート調査によって、教(保育)職への就業に対する学生の期待や迷い、不安といった事前状況からボランティア・プログラム実施後のそれらに対する影響を測定した。結果、事前と事後回答得点にほとんど差がみられないこと、また、自己の適性に対する不安や重圧の比較的低い学生が、本ボランティア・プログラムへの参加を決定していたことなどから、事前準備学習不足の改善、およびプログラム参加へのハードルが高いと感じる傾向のある学生に対する支援と広報活動の改善が必要であることが明らかとなった。

### 4. 暁烏敏とアメリカ

早稲田大学国際言語文化研究所 小林竜一

近代日本の知識人とアメリカ文化との接触・衝突・融合の問題を追求した先行研究は多いが、暁烏敏(1877-1954)という人間を対象とした日米比較文化論の研究は、これまでのところほぼ絶無であったといつてよい。

暁烏については、日本宗教思想史の文脈上、蓮如が封印した『歎異抄』を特定宗派の掣肘から解放することで同時代の知識人に多大なインパクトを与えたという肯定的な解釈がみられる。しかしその反面、『歎異抄』の理解が「私小説的」であるとして、暁烏は特定宗派の立場からかねてより批判の対象となつていもいる。肯定的理解であれ否定的解釈であれ、いずれにせよ『歎異抄』の絶対視や教派主義への拘泥に囚われている限り、暁烏が有する異文化接触論の研究対象としてのポテンシャルを捉える認識の枠組は、決して構築され得ないように思われる。

本発表では、若き日の暁烏のアメリカ精神との接触、および円熟期のアメリカ伝道旅行など、アメリカとの関連から近代日本人の典型として暁烏の言動を分析することで、日米比較文化論という沃野の開拓に資するものとした。

◆関東支部30周年論文集刊行に関するお知らせ 鈴木宣行(創価大学)

◆閉会の挨拶: 関東支部副支部長 高橋 強(東海大学)

\* 閉会后、懇親会を開催した。

◆2014 年度 関東支部総会 ご報告◆

- (1) 総会開会の辞 議長 花澤聖子(神田外語大学)
- (2) 2014 年度会計報告 関東支部事務局長 郭 潔蓉(東京未来大学)  
会計報告の詳細は、後日学会HPIに掲載予定。
- (3) 2015 年度人事案 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)
- ① 以下の役員人事(案)を総会にて審議し、承認を得られた。
- |        |   |
|--------|---|
| 支部長    | 近藤俊明  |
| 副支部長   | 花澤聖子(神田外国語大学)<br>高山有紀(新島学園短期大学)<br>高橋 強(東海大学) |
| 事務局長   | 郭 潔蓉(カク イヨ)(東京未来大学)                           |
| 支部指名理事 | 佐藤知彥(湘北短期大学)                                  |
| 支部推薦理事 | 高橋 強(東海大学)                                    |
| 紀要編集委員 | 鈴木宣行(創価大学)                                    |
| 会計監査   | 三浦幸子(都留文科大学)                                  |
- ② 新たな支部幹事任命(案)が総会にて審議され、承認を得られた。
- |      |   |
|------|---|
| 支部幹事 | 太田 敬雄<br>野口 周一<br>前田 浩<br>鈴木 宣行<br>水島 孝司<br>森崎 巧一 |
|------|---|
- (4) 2015 年度活動計画 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)
- ① 全国大会 2015 年 6 月 13 日(土) 於創価大学
- ② 関東・東北合同支部例会 2015 年 9 月(予定) 関東にて開催
- ③ 関東支部例会 2015 年 12 月(予定)
- ④ 関東支部例会 2016 年 3 月(予定)
- (5) 会則他 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)
- ① 以下の支部会則の改訂(案)が審議され、承認を得られた。
- 旧:「5. 組織 口. 役員 支部に次の役員を置く。」  
新:「5. 組織 口. 役員 支部に次の役員を置くことができる。」
- ② 支部の郵送物を年度初回のみとし、原則としてそれ以外はメールにて執り行う(案)が審議され、承認を得られた。
- ③ 他支部における、支部にのみ属する会員の存在と考え方について、支部長が全国大会理事会にて確認を行う。
- (6) 第 37 回全国大会について 大会実行委員長 鈴木宣行(創価大学)
- ① HPIにて「第 37 回全国大会のお知らせ」のページを開設。
- ② 発表希望の締切を 3 月 31 日にまで延長。
- (7) 閉会の言葉 大会実行委員長 鈴木宣行(創価大学)

以上